

第 79 回 火力専門委員会 材料分科会 議事録(案)

1. 日 時: 2015 年 11 月 16 日(月) 13 時 30 分～16 時 30 分
2. 場 所: 日本機械学会 第 3・4 会議室
3. 出席者: 木村(NIMS)、伊藤(IHI)、吉田(東電)、齊藤(中電)、妹尾(関電)、
俣野(KHI)、森(新日鐵住金)、西川(NIMS)
欠席: 菊原(MHPS 呉)
オブザーバー: 長谷川(発電技検)
事務局: 原

4. 配付資料

- 79-1 第 78 回材料分科会議事録(案)
- 79-2 材料分科会委員名簿(案)
- 79-3 第 73 回火力専門委員会議事録(案)
- 79-4 第 28 回材料専門委員会議事録(案)
- 79-5 第 74 回発電用設備規格委員会議事録(案)
- 79-6 発電用火力設備規格追補案 書面投票(8/7-9/7)結果報告
- 79-7 JESC(日本電気技術規格委員会)技術基準適合性審査経過報告
- 79-8 発電用火力設備規格追補案 公衆審査結果報告
- 79-9 審議履歴表
- 79-10-4 201X 改定案(本文・補遺)
- 79-10-5 規格制定・改訂、正誤表発行スケジュール案
- 79-11 分科会の運営に関するアンケート結果報告と改善策

5. 議 事

- (1) 前回議事録確認 【資料 79-1】

前回議事録(案)について確認を行ない、議事録案は承認された。

- (2) 分科会委員の承認 【資料 79-2】

菊原委員の再任の意向と新任候補として長谷川氏(発電技検)の推薦が報告され、出席委員全員の賛成により、
次回火力専門委員会への推薦が承認された。

(3) 報告事項

1) 火力専門委員会(8/28 開催) 報告

【資料 79-3】

第 73 回火力専門委員会の議事内容が報告された。主要項目は、以下のとおり。

○ 材料分科会の活動状況報告

- ・ 高クロム鋼(火 STBA28 系鋼)のクリープ強度の再見直しを行い、次期改訂版に反映させる方針とした。

○ 審議結果報告

- ・ 規格委員会書面投票 No310 に反映されていない発電用火力設備追補案(2015 追補)に関して、意見対応による追加修正案について審議を行い、改訂案が承認された。

2) 材料専門委員会(8/31 開催) 報告

【資料 79-4】

第 28 回材料専門委員会の議事内容が報告された。主要項目は、以下のとおり。

○ Su, Sy 値策定のための手順書案の検討状況の報告。

○ SN 材許容値策定方針案に関する検討状況の報告。

3) 発電用設備規格委員会(9/9 開催) 報告

【資料 79-5】

第 74 回発電用設備規格委員会の議事内容が報告された。主要項目は、以下のとおり。

○ 火力専門委員会の活動状況の報告

○ 発電用火力設備規格追補案に関する審議

4) 発電用火力設備規格追補案 書面投票(8/7-9/7)結果他報告

【資料 79-6】

発電用火力設備規格追補案に関して、資料に基づき書面投票(8/7-9/7)結果他が報告された。

- ・ 規格委員会書面投票 No310 における意見対応による修正案が承認された。
- ・ 規格委員会書面投票 No310 に反映されていない追加修正案が承認された。
- ・ 発電用火力設備規格(基本規定、詳細規定)追補案の公衆審査実施が承認された。
- ・ 発電用火力設備規格(基本規定)追補案の技術基準適合性について、日本電気技術規格委員会(JESC)へ審議依頼することが承認された。

5) JESC(日本電気技術規格委員会)技術基準適合性審査経過報告

【資料 79-7】

伊藤副主査から、JESC における技術基準適合性に関する審議状況について報告があった。

- ・ 10 月 2 日の技術会議は、3 点ほど質問があったが、問題となるように事項はなかった。
- ・ JESC におけるパブコメが 10 月 8 日～11 月 7 日に実施され、ご意見等は

なかった。

- ・ 11 月 17 日に JESC の本委員会が予定されており、この場で規格が承認されれば、12 月に JESC から国へ規格の活用要請がなされる予定。
- ・ 委員会説明資料の内、材料分科会に係る部分について紹介があった。

6) 発電用火力設備規格追補案 公衆審査結果報告 【資料 79-8】

発電用火力設備規格(基本規定、詳細規定)追補案の公衆審査が、10 月 2 日～11 月 2 日に行われ、ご意見がなかったことが報告された。

(4) 審議事項

1) 追補改訂案について

① 追補版の原稿の準備

前回の分科会以降各委員からいただいたコメント等を反映した資料を吉田幹事が修正し三役にて確認したものが、CS キャビネットの以下のフォルダに格納済み。
材料分科会／O3 追補版資料／最終原稿

12 月 9 日の規格委員会承認、1 月 18 日の標準・規格センター委員会でのプロセス審査、2 月の出版センター会議を経て、3 月以降印刷・発行の準備を進める。
出版用原稿データは、電子データ(Words, PDF)による提供、紙による提供等の方法があるので、三役と調整しながら作業を進める。

2) 201X 年改訂版

① 高クロム鋼のクリープ強度の見直しに関する材料専門委員会への検討依頼

○ 9/30 に電事連の高クロム鋼クリープデータ評価検討会の最終回が開催され、検討討果を経済産業省の電力安全課と日本機械学会に開示することが了承された。報告書は 12 月中にまとめ、来年 1 月には開示される見込み。

○ 上記を踏まえ、材料分科会として、以下の 2 点が承認された。

- ・ 火力専門委員会から材料専門委員会に、高クロム鋼のクリープ強度見直しに関する検討を依頼することを、材料分科会が次回の火力専門委員会(12/4)に提案すること。
- ・ 火力専門委員会で承認を得られれば、高クロム鋼のクリープ強度見直しに関する検討を依頼することを、材料専門委員会(11/26)で事前説明すること。

○ その他関連情報

- ・ 欧州のテナリスが、ASME 規格における Gr91 の許容応力が高すぎるとの調査結果を、11 月の ASME の Code Meeting にてプレゼン。
- ・ これを受けて、日本側は日本における Gr91 のクリープ強度見直しの状況について紹介。
- ・ ASME も Gr91 の再評価タスクを立ち上げる模様。

②201X 年改訂版の今後の作業について

審議履歴表を基に、今後実施する作業について審議を行った。

○許容応力表Ⅱ-1-1

- ・担当を伊藤委員+長谷川委員とする。
- ・火技解釈の安全率 3.5 への改定が、来年夏頃までには見込まれるため、改訂案は火技解釈の安全率 3.5 をベースに、他のパラメータを追記したものとする。
- ・JIS8267 の見直しが必要な箇所を反映する。
- ・高クロム鋼のクリープ強度再見直しの結果を反映する。

○許容応力表Ⅱ-2-1

- ・この部分の火技解釈の安全率 3.5 への改定は、再来年の見込みであるので、今回の改訂には反映しない。

○許容応力表Ⅱ-3-1

- ・引用規格の年版が新しくなっているので、この反映を行う。年版更新の妥当性を評価した資料を残す。(規格委員会書面投票での要請。) 書式は、今後統一的なものを用意する。

③本文、補遺の改訂案

【資料 79-10-4】

俣野委員が、2015 年追補の修正箇所を反映した本文と補遺の改訂案を説明した。

- ・補遺における追補の記載はそのまま残すこととする。(補遺 22 ページなど)

④スケジュール

【資料 79-10-5】

事務局が目安となるスケジュールを提示した。

- 材料専門委員会での高クロム鋼のクリープ強度見直しのスケジュールを 6 ヶ月としてある。材専での書面投票実施まで考慮すると、+3 ヶ月必要になるが、ある程度見通しが付けば、規格への反映はできるので当初案どおりとする。
- 火力専門委員会への改訂規格の提案は、1 年後の 2016 年 11 月末の火力専門委員会を目途とする。
- 構造分科会と溶接分科会において、このスケジュール案にて問題ないかを確認する。(事務局)

④次回の分科会での審議事項

i) ASME 材(鉄鋼材料)の原稿の最終チェック

表Ⅱ-1-2、表Ⅱ-1-3、表Ⅱ-1-4

ii) JIS 材の見直し内容の確認

表Ⅱ-1-1、表Ⅱ-2-1、表Ⅱ-3-1

(5) その他

分科会の運営に関するアンケート結果の報告

前回の分科会終了時に実施した、分科会の運営に関するアンケートの結果を、事務局が資料に基づき報告した。

- ・ アンケートでのご意見への対応については、出来るものから改善に取り組む。
(関連委員会議事のメールによるタイムリーな報告、分科会開始時間の柔軟な運用、資料の場所が分かり易いCS キャビネットの運用など)
- ・ その他のものについても、出来る範囲で改善を進める。

6. 次回開催予定

日 時 : 2016 年 2 月 26 日 (金) 13 : 30 ~ 17 : 00

場 所 : 日本機械学会 第 3,4 会議室